



# 常磐会報



ごあいさつ

常磐会会長 若山直樹  
(高校22回生)

常磐会会員の皆様には、まずまずご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

さて今年も常磐会総会の季節となりました。本年度総会実行委員は昭和58年卒業の高校35回生、定時22回生、平成8年卒業の高校48回生、平成20年卒業の高校60回生の皆様です。田原康行実行委員長を中心に一年間しっかりと準備を進めてくれました。委員の皆様のご努力、ご労苦に深い敬意を表します。また、総会誌、広告協賛に快くご協賛を頂いた皆様、まことにありがとうございました。皆様からのご厚意は今年度総会の運営を始め、常磐会からの現役生への援助にと大切に使用させて頂いています。ありがとうございます。

さて、母校、京都高校は本年度より5年間、文科省より、世界にはばたく人間を育てよう、という『スーパー・グローバル・ハイスクール』として認定されました。県立高校としては県下で2校のみです。同窓会としてもうれしい限りです。現役生の頑張りをしっかりと応援してまいります。

いよいよ来年度平成28年度には学校創立100周年という輝かしい年を迎えます。母校の歴史を

振り返りますと、大正6年4月、京都府立京都高等女学校に始まります。その年の6月に「常磐会」も誕生しております。「ときわ」とは「永久不変」という意味を持つ言葉であり、「いつまでも変わらない友情を育む」との思いで同窓会の名称として選定されたようです。戦後、昭和22年10月に新制の福岡県立京都高等女学校に生まれ変わり、翌年の4月、高校第1回の入学式が行われ、それ以降、今日まで脈々と歴史が受け継がれて参りました。京都高校の輝かしい歴史と伝統は同窓生が心と体と額に熱い汗をかきながら、築き上げてきた一日一日の積み重ねであると言えます。

現在、常磐会会員総数は29,539名となりました。100周年を迎える年には総数30,000名の大台を超えるものとなります。われわれ一人一人がこの母校に大きな自信と誇りを持ち、その意義を深くかみしめながら創立100周年記念祝賀事業を盛り立ててまいります。

最後になりますが、母校京都高校のますますの躍進と、本年度常磐会総会の大盛会を祈念して私のご挨拶と致します。



御挨拶

学校長 丸内 毅

このたびの人事異動により、県教育委員会高校教育課から着任いたしました丸内毅でございます。来年、創立百周年を迎える本校の輝かしい歴史と伝統の重み、さらには歴代校長先生方の卓越した教育実践を顧みますと、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。我が母校である京都高校発展のため、微力ではございますが精一杯努めさせていただきますので、ご支援・ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

同窓会の皆様には、平素より本校の教育活動に對しまして、物心両面からのご支援とご協力を賜っておりますことに對しまして、この場をお借りしまして深く感謝申し上げます。

さて、四月六日に始業式、翌七日に入学式を行い、平成二十七年の教育活動がスタートいたしました。それぞれの式辞で生徒諸君にも伝えましたが、本校は本年度から五年間、文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール（SGH）の研究指定を受けることとなりました。具体的には、国際的な社会課題の一つである農業問題について、生徒諸君が京都大学から直接指導（大学や本校での講義、ICTによる遠隔授業等）を

受けながら、その解決策を探る探究活動を行うとともに、世界的に活躍する企業人による講演や留学生との英語による交流、さらには環太平洋地域への海外研修等を行うことにより、国際的視野に立つた教養を身に付け、コミュニケーション能力、さらには課題発見・解決能力、異文化理解能力など、京築地域はもとより、国際的に活躍するグローバルリーダーとなるための素養を身に付けていきます。

我々教職員一同もさらなる研鑽を積み、本校がこれまで積み上げてきた良き伝統をしっかりと継承・発展させながら、国際社会を逞しく生き抜いていける生徒を育成するため、より質の高い教育を提供して参ります。

最後になりますが、現在、来年十月二十九日（土）に実施いたします創立百周年記念式典に向け、若山会長をはじめ同窓会の皆様方と議論を重ねながら、本校が大いなる飛躍を遂げるに相応しい式典となりますよう、その準備を進めております。同窓会の皆様におかれましては、さらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。着任のご挨拶とさせていただきます。

# 平成27年度常磐会総会を終えて

平成27年度常磐会総会実行委員長 田原 康行（高校三十五回生）

本日は、二〇一五年度常磐会総会および記念講演会にご来場いただきまして誠にありがとうございました。

本年度実行委員長をつとめます高校三十五回生の田原康行です。実行委員会を代表いたしまして、一言あいさつを申し上げます。

本年度の総会および記念講演会の開催に当たりましては、たくさんの方々の地域の方々や企業様からのご協賛をいただき、また、同窓の諸先輩方や後輩の皆様から暖かいご支援・ご声援をいただきました。このことに対して心より感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

常磐会は福岡県立京都高等学校の同窓会組織として、会員相互の親睦と母校の発展に寄与することを目的に活動しています。母校京都高校は、前身の福岡県立京都高等学校時代とあわせ創立百周年を迎えます。その間、三万人の卒業生を送り出し、各界で活躍する同窓生も数多くおられます。私たち同窓生は、同じ学び舎から巣立っていった者どうしお互いにつながりあうとともに、母校に対する愛情と誇りを胸に、それぞれの道をしつかりと歩んでいくことで、母校の発展を支えていく一員でありたいと考えています。また、そのことが、母校や常磐会をご支援くださるこの地域の方々、関係する多

くの方々へ少しでも恩返しできることになればとの思いで、今回、総会の当番をつとめております。

さて、本日の講演はいかがだったでしょうか。この講演は、総会の開催にあわせ記念イベントとして開催するものですが、同窓生に限らず、日頃お世話になっている地域の方々をはじめ、広く一般の皆様にも鈴木明子さんの魅力に触れていただきたいと思い、企画したものです。どんなに辛いことがあっても、決して自分の目標を見失わず、自分の心に素直に生きていくことを実践して、自分の夢を実現させた鈴木さんのお話は、皆様の心にきつと響いたに違いないと思っています。本日は、ご来場いただき、本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

また、本日、総会、記念講演会を迎えるにあたり、準備段階からご指導・ご支援をいただきました若山会長はじめ常磐会役員会員の皆様、母校の丸内校長先生はじめ教職員の皆様、協賛広告等にご協力・ご支援いただきました地域の皆様、あらゆる所であらゆる形で支えてくださいましたすべての方々に対して、この場をお借りして、心よりお礼を申し上げます。間もなく百周年を迎えようとする母校が、この地域で今なお愛され、支えられ、卒業生を送り出し続けていることに誇り

を感じますとともに、あらためて感謝のこぼを申し上げます。今年の総会、記念講演会は、高校三十五回生、四十八回生、六十回生、定時制二十二回生が当番をつとめました。何かと行き届かないところもあったかと思いますが、ご来場いただきました皆様にご協力のおもてなしができるように努めてきたつもりですので、なにとぞご理解のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

結びに、母校京都高校および同窓会常磐会、また、それを支えてくださる故郷のますますの発展を祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。

私たちが育み、見送っていただいた先生方、同じ学び舎で青春時代をともにした友人たちに感謝の気持ちを込めて・・・

京都高校 わが母校  
青春三歳 過ごし日々  
思い出幾多、心に残る  
嗚呼 今川の河畔城  
(京都哀歌より)

